

# 僕とサタン

◇登場人物

- ・少年（シュン）
- ・母親
- ・バジル
- ・魔王
- ・妃

◇リビング——昼

緞帳が上がる。

○風鈴の鳴る音／蝉の鳴き声(F.I)

テーブルには計算ドリルやワーク、歯磨きカレンダーなどが散乱している。少年が大の字になっている。

母親（声のみ）シュン！

少年 ……うん

母親（声のみ）そろそろご飯だからね。シュン！

少年 判ってるって！

母親が少年のもとにやってくる(上手から登場)。

○蝉の鳴き声(F.O)

母親 ぐちゃぐちゃじゃん。ほら片付けて

少年 あああああ！もう終わらないよこんなの

母親 あと何残ってるの？

少年 うるさい

母親 明後日出かけるんでしょ。(宿題を覗いて)これだけじゃん。終わるよ

少年 終わらないよ！だってあと歯磨きカレンダーとドリ

○=SE

## 僕とサタン

- ルとバジルの観察日記と……作文残ってるんだよ
- 母親 そうだ作文あるんだった。うわーなんで早くやんなかったのー
- 少年 だから終わんないって云ってるんじゃない！お母さんにこの話毎日してるのに全然覚えてない
- 母親 ……取り敢えずご飯だから此処片付けちゃって
- 少年 んんー、もう！他人事じゃん！
- 母親 （お盆を運んできて）シユンも早く持つてきて。お母さん先に食べちゃうよ。はい、いただきまーす。ほら、もういいから食べるよ。洗い物一回で済ませたいから厭だ……謝ってよ
- 少年 嫌だ……謝ってよ
- 母親 なんです。お母さん何もしてないんですけど
- 少年 だっていつもいつもいつもそうやってき、シユンの嫌がることばかり云うしき、宿題やれやれってやってんの
- 母親 やってないからこうなってるんじゃない。もういいから早く持つてきて食べて。お母さん今日ちよつと頭痛いの（頭を掻きむしりながら起き上がる）はあ。しかもまた炒飯だし
- 母親 じゃあいいよ。食べなくて。明後日遊園地行けなくてもいいから宿題は終わらせて学校行ってね。何時もギリギリなんだから
- 少年 だからうるさいって！もう……（ぼそつと）ヒロト君のお母さんと一緒じゃん
- 母親 何が一緒なの？
- 少年 （何気なく）ヒロト君が親ガチャ失敗したって。何時もお母さんが怒ってばっかで親ガチャ失敗した。優しいお母さんがよかつたって……
- 母親 ……なにそれ。意味判らないんですけど
- 少年 ……
- 母親 親ガチャって……。シユン本当にそんなこと思ってるの？あり得ない。もう食べなくていいよ。失敗作なんだでしょ？
- 少年 いや
- 母親 （皿を片付けながら）お母さんなんかした？何もしてないよね。じゃあシユンは何か一つでも家のお手伝いしてくれたの。夏休み中はお手伝いするって約束したよね。何もしてないじゃん。（皿を洗いながら）結局お母さん全部やってるんじゃない
- 少年 ……
- 母親 （少し泣きながら）お母さんだって……。 （エプロンを脱いで）駄目だ。ちよつと……出かけてくる
- 母親がバッグを持って出ていく（上手にはける）。

## 僕とサタン

沈黙。

○玄関のインターホンの音

少年がびつくりする。

少年 ……誰

ベランダ(下手)からじょうろを持った魔王が侵入してくる。少年と目が合う。

少年 ……い、やだ。はあはあ。(腰が抜ける)はあはあ。い

やああ!

魔王 落ち着け

少年 厭アアアアアア!

魔王 五月蠅い少し落ち着け(両手を広げ少年に向ける)

魔王が魔力で少年を落ち着かせる。

魔王 そうだ。それでいいんだ

魔王が部屋の隅にあるバジルに近づく。

魔王 これじゃあ駄目だ。可哀想に。カラカラじゃないか

魔王がバジルに水をやる。

魔王 これでよし

少年 ……誰

魔王 ああ…私はなア、魔王だ

少年 まお?

魔王 そうだ浅田真央だ

少年 ……

魔王 大地真央だ

少年 嘘だ

魔王 嘘だ。私は魔王だ。

今日はお前のためにわざわざ来てやった

少年 魔王って…。なにそれ

魔王 魔王は魔王だ。ほら学校で習わなかったか?(ピアノを弾くマイムをして)シューベルトの「魔王」。あれは確か、馬に乗っている親子を魔王が追いかけ、最後に魔王が子どもの命を奪う。っていう作品だったな。音楽には疎いんだが、大体そんな感じだろ?

少年 ……

魔王 まだ習っていないか。まあ兎に角だ。命までは奪わないが悪さをした子供は魔界に連れ出す

少年 嘘だ

## 僕とサタン

魔王 嘘ではない。(バジルに近づくと)私はヒトならざるものと会話ができる。ああ、魑魅魍魎の類は勿論だが

例えばこのバジル。やあ

バジル 御機嫌よう

魔王 御機嫌よう。君は綺麗だね。特にこの艶のある葉。

繊細に刻まれた葉脈、深い緑も美しい。セクシーだ

バジル (恥ずかしそうに)綺麗？

魔王 とても綺麗だ

バジル 私と鈴木京香だったらどっちが綺麗？

沈黙。

魔王 ……。(少年の方に向き直る)私は世界中の子供の情報

を全て把握している。お前の名前は酒井シユン。十歳

八か月。生まれたときの体重は三一〇〇グラム。好き

な食べ物にはパンの耳とナポリタンと炒飯。嫌いな食べ

物はセロリと茄子と蛸飯。今は四年二組の斉藤リサチ

やんのが気になっている。あのちよつとおちやつ

びいなどころが堪らないんだろ

少年 な

魔王 だから云つただろう。私は魔王だ。この世のすべてを

知っている

少年 ……判つたよ。魔王でいいよ。でも帰って

魔王 帰るわけにはいかない。これからお前には契約書を書

いてもらうからな

少年 契約書？

魔王 そうだ契約書だ。お前は悪さをしたからな

少年 な、僕何もしないし

魔王 自覚はないのか？

少年 ……ないよ。……べ、別に何もしてないもん

魔王 歯切れが悪いなア。本当は判っているんだらう

少年 ち、違うよお。何もしてないし、そんなちよつとやそ

つとのことで子供を魔界に連れ出してたら、た、大

変じやん

魔王 そうなんだよ大変なんだ。毎日毎日毎日毎日子供を連

れ出している。……まあお前はちよつとやそつとの罪

ではないんだがな。……此処にサインするんだ

魔王 厭だ！

魔王 これが私の仕事なんだ。つべこべ云わずに書け

少年 厭だ！そもそもなんで勝手に家に入ってくるの？お

かしいよ。ふ、不法侵入だよ！帰れ！

魔王 (むつとして)魔王に向かって帰宅命令とはいいい度胸

少年 だ だって

## 僕とサタン

魔王 母親に似て口だけは達者だなア

少年 ……なんでお母さんのこと知ってるの？

魔王 聞いてないのか？……そうか。お前の母親もなあ幼い頃お前と全く同じことをして魔界に連れ出された

少年 お母さんが？

魔王 そうだ。こうやってみると母親の幼い頃とそっくりだなア。生意気だ。

さあ、時間がない。ちやっちやと書け。お前の罪の重さだと三週間ぐらいだろ。三週間私の城の掃除をしてもらう。雑巾がけだ。大体の子供は一日魔界に居れば反省するが……お前は違う。広い城の掃除をしていれば、自分と向き合う時間も増えて心が落ち着き、事の重大さに気づくだろう……書け

少年 厭だよ（泣きそうになりながら）帰ってよ

魔王 いいから書け書くんだ！（少年にペンを持たせる）書けエエエ！

少年 厭アアアアアアア

### ○電話の着信音

魔王がポケットから携帯電話を取り出す。魔王の顔が翳る。

魔王 ちょっと待ってろ。……もしもし

妃 （声のみ）あ、もしもし。ごめん今仕事申中だった？

魔王 大丈夫だよ。どうしたんだい

妃 （声のみ）あのさあ帰りでいいんだけどさあ、みりんとボックスティッシュ買ってきてくれないかなあ

魔王 オッケーみりんとティッシュだね。みりんティッシュみりんティッシュ

妃 （声のみ）あと今日の夜じいやと私で窯焼きピッツア作るんだけどさあ

魔王 おおあれ旨いよな君の窯焼きピッツアが宇宙一好き（声のみ）そんなことはいいんだけど。なんかチーズとオリーブとコーンはあるっぽいんだけど、バジルがないみたいで……

魔王 ……バジル

魔王とバジルの目が合う。バジルは艶っぽい目で魔王を見つめ、ウインクする。

妃 （声のみ）ちょっともしもし聞いている？それもお願いできる？

魔王 あ、ああ。判った。あ！あと明日なんだけど……ほら前云ってた水木しげる先生とデーモン閣下との例のお茶会、スケジュール動いて明日になっちゃってさ。

## 僕とサタン

お弁当要らないです

妃 (声のみ) ハァ!もう私明日のお弁当のおかず作っちゃったんですけど

魔王 (内股になって) だよねだよねだよねごめんごめんごめん。それ夜に回してください

少年が隙を見てそろりそろりと魔王から遠ざかる。

妃 (声のみ) ったく。当たり前だよ

魔王 じゃあ今ちよつとアレだからはい。うんうんはいはい。早めに帰りまーす

妃 (声のみ) 別に早く帰ってこなくていいよー

○電話を切る音

魔王が大きな溜息を吐く。沈黙。

刹那、少年が走り出す。

魔王 逃げる気かア!!

少年 (気圧された様子で立ち止まる) 厭だ!判らない!

魔王 何が判らない。自分のしたことが判らないのか?判っているから逃げるんだらう。そんなに判らないというなら教えてやらう。

母親の云うことを聞かない。宿題をやらない。それが

お前の罪状ではない。お前が魔界に行く理由は……言葉でヒトを呪ったからだ

少年 ……

魔王 お前は言葉の力を見くびり、母親に『親ガチャ失敗』と云った。そのひとは呪いとなり母親に作用しただらう。言葉の力で、呪いで、幾人が死を強制的に選ばされたことか。此処最近、言葉を呪いとして使う人間が多い気がする。それでも世の中は静謐に見える。(少年に囁くように)「言葉」は何のために生まれたと思う?

○ドアを開ける音や靴を脱ぐ音

魔王 まずい

母親が帰ってくる(上手から登場)。

魔王 久しぶりだな

少年が母親の前に立ち、両手を広げる。

## 僕とサタン

少年 お母さんは……関係ない

魔王 どけろ

少年 止めて！

魔王 いいからどけろ！

少年 (泣き出ながら) お母さんは何もしていない！

魔王 話をするだけだ！

少年 僕は！また炒飯かなんて、……親ガチャ失敗なんかお、  
思っていない！

魔王 白々しい。口先ばかりだ

少年 ち、違うウ。ホントは炒飯好きだし。親ガチャもかつ

こよかったから……かつこよかったから使っちゃつ  
たのもう、お母さんのこと呪わないようにする！もう  
あんなこと云わないから！

魔王 お母さんどう思いますかこれ。もう連れて行きますよ

母親 (独り言のように) 連れて行ってほしい。私は傷つい

た

魔王 でしょほら。ほら行くぞ

母親 でも……結構です。息子を魔界には行かせない。魔界  
に連れて行って何になるの？反省する？しないわき

つと。それに魔界は暑すぎる！行ったことあるから判  
る。日本の夏より暑いわ。この子が耐えられるとは思  
えない。……確かに私は傷ついたわ。でもね、シユン

が何を考えているのかぐらい私にも少しは判るわ。口  
だけは達者なの。まあ今回の親ガチャは本気だったか  
もしれないけど……

少年 違う！

母親 うちの掃除もバジルの水やりも出来ない息子が城に

行ったって何にもならない。シユンのことは私が一番  
能く判ってる……ずっと……一緒に生きてきたから。

……それに魔界は暑すぎる

魔王 それはさつき聞いた

母親 卑怯よ、子供には自分を大きく見せる癖に、城の中で

は奥さんにもじもじって

魔王 それは！……それはさ、云わない約束じゃんか

沈黙。

魔王 (子どもに向かって) どうなんだ

少年 ……明後日遊園地行きたい

沈黙。

魔王 もしまたヒトに対してあんなことを云ったら……次

はないぞ(契約書を破る)。

## 僕とサタン

もう……参ったなあ。ああ、そうだ、バジル貰うぞ  
少年 えっ、ちよっと。日記があるからそれは駄目  
魔王 じゃあ二、三枚だけ貰う。それはいいだろ？

魔王がバジルに近づく。

魔王 失敬（バジルの葉をちぎろうとする）

バジル キャー！なにするの

魔王 ちよっとだけ

バジル 私……都合のいい女だったのね！

魔王 違う。違うさ。君を連れて帰ることは出来ないんだ。

魔界は君にとって環境が余りにも劣悪だ

バジル それでもいいの。私は地の果てまで貴方についていくわ

魔王 そんなこと。駄目だ。この葉を貰えば何時でも君を  
思い出す事ができる。違うか？……全ては君を思  
つてのこと

バジル ……何枚ほしいの？

魔王 二、いや三枚、いや四……五枚で

バジル ……（葉を魔王に渡して）私のこと忘れないで

魔王 忘れないさ。一生

魔王が少年に向き直る。

魔王 少年。二度と私に会わないようにしろ。判ったか！返  
事！

少年 はい

魔王がじょうろを持ってベランダへ向かう（下手にはける）。

少年 （ボソツと）ごめんなさい

母親 ……うん（ニヤニヤし始める）

少年 えっ。何で笑うの

母親 いや、何でもない。アイス買ってきたけどどうする  
あつ、でも炒飯あるじゃん。食べなよ。好きなんだし  
よ。ほらあつためて

少年 どうやって温めるの

母親 チンすればいいんだよ

少年 やり方判らない

母親 ええー。じゃあ教えるから来な

二人が台所に向かう（上手にはける）。

○風鈴の音

# 僕とサタン

＊参考文献……『地獄の楽しみ方』（京極夏彦著／講談社文庫）